

2020（令和2）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

食・健康学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は5ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 解答用紙【和文用】には裏にも解答欄があります。  
解答用紙【英文用】は表のみです。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄**に**受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。







**問題.** 以下の文章を読み、あなたの考えを述べなさい。

グローバル化の進展とともに国境を越えた人やモノの移動が活発になり、食料も国境を越えて売買されている。近年、日本の食料自給率は約4割であり（注）、日本で供給される食料のかなりの部分が海外で生産されたものということになる。つまり、日本の食料は、グローバル化が進んでいることがわかる。

他方で、日本では地域でとれた農産物をできるだけその地域で消費しようという「地産地消（ちさんちしょう）」運動が注目されている。類似の活動は他の国や地域でも見られる。また、その地域の伝統的な品種を栽培したり、地域の自然環境に優しい農法を実践したりするような、地域の伝統や環境を守ることや、地域の振興を意図したローカルな取り組みも世界の各地で広まっている。

飲食店に目を移すと、世界各地に飲食店を展開するグローバル企業をいくつか知っている人も多いだろう。また他の国や地域の食を提供する飲食店も多い。日本にもたくさんのイタリアン・レストランや中華料理店等がある。逆に海外には約12万店の日本食レストランがあると言われる。それらは、日本以外に住む人に日本食を楽しむ機会を提供し、日本の食文化の普及に貢献している。しかし、味付けやサービスは、その地域の人々の文化や好みにあわせて調整し、日本で提供されている食事とは異なった“日本食”が提供されることもある。

このように現代では、食をめぐる国際的な動き（グローバル化）と地域を志向した動き（ローカル化）が同時に進んでいると言える。そこで、食のグローバル化とローカル化について、800字（英語で解答する場合は400 words）以内であなたの考えを自由に述べなさい。その際、内容を表すタイトルをつけなさい。

注：食料自給率には、計算の方法によって「総合食料自給率（カロリーベース）」「総合食料自給率（金額ベース）」などがある。カロリーベースの総合食料自給率は、供給される食品の重量を供給熱量（カロリー）に換算し、各品目の国産部分を足して算出される。農林水産省の資料によると2018年度は、国民1人あたりに2443kcalが供給され、そのうち国産部分が912calだったので、37%であった。





